

農学部修士課程修了者 → 国際的に活躍する癌遺伝子領域研究者 履修モデル

基礎医学研究者

入学者



農学部修士課程修了者で植物の遺伝子解析・遺伝子操作技術のバックグラウンドを持ち、本専攻で医学研究の知識を学びジョイントディグリーを授与されることで国際的に活躍する基礎医学研究者を目指す学生

名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻

【修了要件】

在籍中に、共通科目(2単位)、専門科目[名古屋大学におけるA群(セミナー10単位、実験研究6単位)、アデレード大学におけるB群(セミナー10単位、実験研究2単位)]の合計30単位を修得し、学位論文の審査に合格し、学術雑誌に受理されていることを要件とする。

【履修する研究テーマ】

名古屋大学とアデレード大学で、基礎医学領域から腫瘍病理専門分野を選択し、名古屋大学の指導教員を主たる指導教員としてアデレード大学側の腫瘍病理専門分野の教員を副指導教員とする。

発がんの分子メカニズムの解明とがんの新規診断法の開発を課題とする。

- ・がん遺伝子の機能解析
- ・がん抑制遺伝子の機能解析
- ・がん接着遺伝子の機能解析

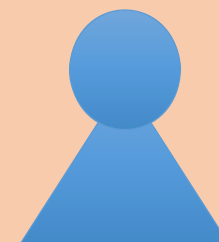
【指導教員】

・主指導教員: 1年次に、Akt-Girdinを中心とした基本的ながん関連遺伝子の働きを把握する事について指導、助言し4年間の研究テーマを考える。

・副指導教員: 2年次以降に12ヶ月以上を過ごす連携大学側の指導教員であり、Akt-Girdinの下流域で細胞増殖と転移に与える影響について、高度な専門知識と技術指導を主指導教員と連携して行う。アデレード大学の複合医学研究施設SAHMRIの中で研究室横断的に遺伝子解析と細胞実験を行う手法を指導、助言する。

・主指導教員: 4年次に論文の作成を指導し、名古屋大学とアデレード大学での研究内容をまとめて、論文作成を指導する。

修了者



がん遺伝子領域で研究者間の国際的人的関係が構築されており、国際的な研究を行うための基盤を持ち、がん遺伝子領域研究のリーダーとなる基礎医学研究者